

CORPORATE REPORT 2024

日東富士製粉
コーポレートレポート
2024



日東富士製粉とは

パーパス・ビジョン・行動指針の策定

日東富士製粉株式会社は本年、創業110周年を迎えたのを機に、社会における当社の存在意義・在り姿として新たにパーパス「小麦の持つ無限の可能性で、世界の多様なニーズに挑戦し続ける」を策定いたしました。また、パーパスを実現する為のビジョン・行動指針も同時に改定いたしました。

本パーパスには、従来の考え方にとらわれることなく、社会課題の解決に繋がるあらゆる取り組みに挑戦し続けることが重要という当社の社員の思いが込められています。



小麦の持つ無限の可能性で、世界の多様なニーズに挑戦し続ける

事業基盤の強化により持続的に成長する企業となる
能動的に細かなニーズを捉え、新規領域での成長に挑戦し続ける

- 環境に配慮した製品・サービスの開発と提供により、社会に貢献し続ける
- 法令と社会規範を遵守し、誇りを持って仕事に臨み続ける
- グローバルな視野をもち、多様な文化を受け入れ、すべてのステークホルダーへの満足度を高め続ける

中期経営計画2026とパーパスの位置づけ

[詳細はp7をご覧ください](#)



目次

日東富士製粉とは

- 01 パーパス・ビジョン・行動指針の策定
- 03 私たちの小麦粉へのこだわり

日東富士製粉の価値創造

- 05 社長メッセージ
- 07 中期経営計画2026 概要
- 11 管理本部長メッセージ

事業を支える基盤

- 12 財務ハイライト／事業セグメント概要
- 13 ESGハイライト
- 裏表紙 企業情報／株式情報

編集方針

日東富士製粉は、この度、事業の特長・強みやサステナビリティに関する考え方、ならびに今期からスタートした「中期経営計画2026」について、より広くご理解いただくことを目的に、「日東富士製粉コーポレートレポート2024」を発行することとしました。本レポートを、ステークホルダーの皆様との重要なコミュニケーションツールの1つとして位置づけ、更なる充実に努めてまいります。

対象期間 2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)

※一部当該期間外の情報・取組みを含みます。

対象範囲 日東富士製粉単体、及び連結子会社7社を含むグループ全体の活動を報告しています。

発行年月 2024年10月

私たちの小麦粉へのこだわり

FOR PROFESSIONALS

原料の選別から精選、篩分けによって様々な用途の小麦粉を生み出します。
 厳格な食品安全の管理体制により、安全・安心な製品をお届けします。

01 OUR MISSION

私たちの目指すところ

私たちの販売先は業務用のお客様が主体です。
 そのお客様の殆どがその道のプロフェッショナルであり、そのお客様に対してお役に立てることは何かを常に考え、最適な小麦粉をご提案しています。『製粉事業のプロフェッショナルとして、お客様とともに成長し、社会にとってなくてはならない存在』を私たちは目指しています。

02 FLOUR FOR PROFESSIONALS

プロのための小麦粉

お客様のご要望にお応えするため、長い歴史の中で培われ、進化してきた小麦粉を基に、多種多様な特性をもったブランド粉をつくりました。既存のブランド粉を大切にしつつ、これからも「食」を要とした新しい可能性を追求していきます。

〈製品一覧〉



パン用粉				
	モンブラン	ライフラワー	インテグラール	シャントウール
麺用粉				
	天壇鉾	天壇	天壇真	ソティール
ミックス粉				
	金星 Y-E 標準的な天ぷら粉。 淡い黄色の揚げ色 になります。	花咲一番 A 食感が軽く、サク味 がある天ぷら粉。	イーストーナッツミックス ふわりソフトで口溶け の良いタイプから、甘さ 控えめの総菜フリリン グ向けタイプ等、各種取 り揃えております。	たい焼きミックス 保形成がよく、しっ かりとした食感のた い焼きになります。
家庭用 小麦粉製品				
	アルプス小麦粉	全粒粉小麦粉	デュラム小麦粉	ライ麦粉(中挽き)

03 CASE STUDY FOR THE BREAD

導入事例

〈CHEF'S INTERVIEW〉



<p>Vol 01. KATSUEI SHIGA 志賀 勝栄 シェフ</p> <p>～美味しさの秘訣ロング挽き「モンブラン」～ ～フレッシュなライ麦粉～ ～甘みのあるデュラム粉「ソティール」～</p>	<p>Vol 02. AKIRA ENOMOTO 榎本 哲 シェフ</p> <p>～黄色味がキレイな「シャントウール」～ ～もちもちを超えるもっちり食感「国産小麦粉D-1」～ ～デュラム小麦粉100%のパン「ソティール」～ ～甘みと香りが際立つ石臼全粒粉「インテグラール」～ ～フレッシュ挽き「ライ麦粉」～</p>	<p>Vol 03. RYOTA MORITA 森田 良太 シェフ</p> <p>～デュラム小麦100%で多種多様なパン作り「ソティール」～ ～特徴のある石臼全粒粉「インテグラール(外麦、内麦)、サンテグラ」～ ～種類豊富な「ライ麦粉」～ ～挽きたてのライ麦粉をお届け「フレッシュライ」～</p>
---	--	---

04 SUPPORT JAPANESE FOOD SUPPLY

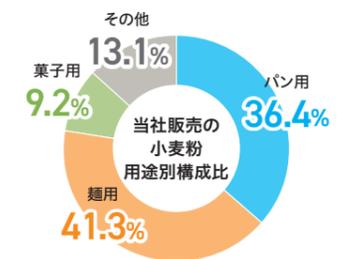
日本の食を支える

日本の食生活の根幹ともいえる小麦粉を日々供給しています。小麦粉はパン・麺・菓子等に加工され、消費者の食卓に届けられます。日本の食を支える企業としての誇りを胸に、今後も成長していきます。

国内小麦粉の販売シェア(数量ベース) **No.4** (約7%)

〈日刊経済通信社2022年度データより推定〉

〈2023年度当社実績データ〉



05 DELICIOUS, HEALTHY AND VALUE

美味しく、健康的で、新たな価値を

私たちが小麦粉を作る上で大切にしていることは、プロの皆様が美味しいと喜んでいただくことです。

美味しく、より優れた品質を追求するために穀物を中心とした各種食品の技術開発をはじめ、機能性食品の開発などに積極的に取り組んでいます。

また、当社HP内に「コナレポ(小麦粉のレポート)」を新設いたしました。様々な食品の原料に用いられる小麦粉がどのような工夫を経て幅広いアイテムに変化をしているのか、製造者の皆様を持つポイントやこだわりを、製粉メーカーである私たちの目線でご紹介しております。美味しく、健康的な商品を作りながら、よりご支持いただける新たな価値作りを目指していきます。



〈あなたの街のコナレポ〉



社長メッセージ

全社員一人ひとりがチャレンジ精神をもち、
能動的に動きながら挑戦し続けることで
新たな当社の文化を築き上げ、
食の安全・安心と美味しさを
これからもお届けしてまいります。

創業110周年を迎えたのを機に、私たち日東富士製粉は社会における当社の存在意義・在り姿としてパーパスを策定するとともに、更なる高みを目指した中期経営計画をスタートするなど、新たな経営ステージへと突入いたしました。従来の考え方にとらわれることなく、社会課題の解決に繋がるあらゆる取り組みに挑戦し続け、一層の企業価値向上を目指してまいります。

代表取締役社長 宮原 朋宏



創業111年目に突入した日東富士製粉

お陰様をもちまして当社は2024年3月に創立110周年を迎えることができました。現経営トップとして当社創業110年を迎えられたことについて、大変身の引き締まる思いでございます。当社は幾多の経済恐慌を乗り越え、日本経済の発展とともに統廃合などを重ね、成長を果たしてまいりました。そして今日、人口減少や高齢化に伴って食品業界自体も縮小均衡という波にさらわれ、年々業界環境は厳しさを増しております。このような中、目の前にある課題から目をそらすことなく、偉大なる先人たちが成し遂げてきたような創意工夫をこれからも重ね、当社の成長及び歴史と伝統を次の世代に繋げてまいりたいと考えております。

前中期経営計画を1年前倒して終了 そしてパーパス及び新中期経営計画の策定へ

これまで当社では、2024年度を最終年度とする「2024中期経営計画“New Foundation for the Future”」を2021年度から展開していたのですが、掲げていた各KPIは順調に推移し、全定量目標を2023年度に1年前倒して達成することができました。

しかし一方、少子高齢化の中で1人当たりの小麦粉消費量は横這いで推移し、国内の小麦粉の需要というものは、

今後もやはり大きく増加することはないだろうと見ています。また、縮小傾向の国内製粉市場を中心に事業を展開している当社としては、そのような環境に対して非常に強い危機感を持っております。このような考えの下、私は、先行き不透明な状況下であるからこそ将来を想定し、そこから現在の課題と打ち手を全社員で共有すべきと判断し、当中計前倒し終了と、新中計及びその計画の柱とするパーパスの策定・公表へと動きました。その結果として、全社一丸となり課題に向けた取り組みというものが、ようやくスタートできたのではないかと考えております。なお、もしかすると「目標達成できたから次の中計に移行した」と捉える向きがあるかもしれませんが、決してそのような短絡的な判断からではなく、ここに述べたような強い決意をもって今般の判断に至ったということを、是非ステークホルダーの皆様にはご理解いただけましたらと存じます。

パーパスと新中期経営計画の展開

— パーパス「小麦の持つ無限の可能性で、世界の多様なニーズに挑戦し続ける」—

パーパス「小麦の持つ無限の可能性で、世界の多様なニーズに挑戦し続ける」には、先行きが不透明な環境が今後も予測される中、従来の考え方にとらわれることなく、社会課題の解決に繋がるあらゆる取り組みに挑戦し続け

ることが重要である、という想いを込めています。

私の率直な感想ですが、当社は何事に対しても非常に真面目である一方、新たなことへの挑戦心という部分で物足りなさを感じていました。これからのサステナブルに向けては、どのような社会環境にも対応できる組織、またそれを形成する社員のマインドセットが不可欠であり、当パーパスを策定した次第でもあります。当社のパーパス経営は緒に就いたばかりですが、当パーパスと同時に策定したビジョン「事業基盤の強化により持続的に成長する企業となる」「能動的に細かなニーズを捉え、新規領域での成長に挑戦し続ける」、そして3つの行動指針に基づき、明確に挑戦し続ける企業文化というものを作り上げていきたいと考えております。

— 新「中期経営計画2026」(2024~2026年度) —

『原料調達・製造・販売・開発・物流』全部門の連携を強化し、全社一丸となって、食の安心・安全・美味しさをお届けする」という基本方針を前中計から継承しながら、今回の新中計では最終年度の業績目標として連結純利益45億円、ROE8%以上、基礎収益30億円以上、基礎収益ROA 4.1%以上を計画しております。

ここ数年の当社の利益は、配合飼料用の相場の好調さにある程度支えられてきたのが実情でした。しかしその間、我々の本業である小麦粉とミックス粉の利益は逆に右肩下がりであったのも事実でした。この点に関し、社員の皆さんに健全な危機感を持ってもらうべく、新中計のKPIの中に基礎収益(〔営業利益－配合飼料用副産物損益〕×(1－実効税率)+事業投資損益(持分利益))を盛り込んだ次第です。

これら最終年度の業績目標の達成に向け、今回の新中計では、「既存事業の収益力強化」「新規事業領域の強化」「事業基盤の強化」という3つの重点領域を掲げております。

「既存事業の収益力強化」では、シェアの維持あるいは拡大といったものを1つの大きな目標として据えております。挽砕量を増やすためには販売を拡大せねばならず、そのためには消費者ニーズの把握が重要となります。そこでマーケティング力を強化すべく、専門チームを設けました。当専門チームの下で企画と開発がより一体となり、もち小麦といった特徴ある商品あるいは高品質な小麦粉といったもののブランド力を高め、更なる拡大を目指していく方針です。

「新規事業領域の強化」では、まずポイントの1つとして海外事業への取り組みが挙げられます。現在当社ではタイとベトナムでミックス粉事業を展開しているのですが、海外市場は非常に伸び代が大きく、量的拡大あるいは質的向上に資する政策をしっかりと推進していきたいと考えております。もう1つのポイントがDX戦略の推進です。“稼ぐ

DX化”として、DX戦略全体のグランドデザインを施した上、業務の電子化・効率化やECプラットフォームの構築を目指します。

「事業基盤の強化」では、先述したような企業文化の構築というものが大きなポイントになるかと考えます。そこに向けて、これまで縦割り感があった組織に風穴をあけるような形で、大規模な組織改革を行いました。この新たな組織編成をベースに、今後は社員の皆さんに働きやすさや働きがい、様々なキャリアプランを提供できるよう、人事制度の改革にも着手していきたいと考えております。また「事業基盤の強化」の一環として、資本効率向上と財務安定性を踏まえた資本政策を推進していく方針ともしております。今後は、安定的な自己資本を維持しながら財務レバレッジを効かせ、成長投資と株主還元をしっかりと行ってまいります。なお株主還元に関しては、特に長期保有の株主様にしっかりと報いるという意味合いを含め、新たに累進配当を導入いたしました。これにより向こう3ヶ年は1株当たり280円を下限として、堅実な利益成長に応じた安定的な増配を維持していく方針です。

食の安全安心の確保のために

当社では食品安全の国際規格ISO 22000の認証を取得し、これをベースにした独自の総合生産管理システム「NTOF(NittoFuji Total Operation Program)」を構築・運用しております。NTOFは年1回実施される内部監査によって運用状況が確認され、適宜システムの変更を行っております。また、全工場の実務担当者が一堂に会した毎月の定例会議では、細かなところに至るまで様々報告がなされ、色々な注意喚起等の水平展開を図ることができています。タイ、ベトナムの海外を含む全工場におきましても、食品安全の国際規格FSSC 22000の認証を取得しております。これらをはじめとした食品安全に関わる継続的な一連の取り組みを通じ、お客様に安全安心な商品をお届けするとともに、安定した製品の製造・供給に努めてまいります。

ステークホルダーの皆様へのメッセージ

このたび発表させていただいたパーパスと新中期経営計画の実現に向け、私たち日東富士製粉グループは、これから社員一人ひとりが日々様々な課題にしっかりと「挑戦」し続けてまいります。ステークホルダーの皆様方におかれましては、是非末永く、私どもの挑戦を見届けていただけましたらと存じます。どうぞこれからの当社グループの展開にご期待ください。また今後とも変わらぬご支援の程、何卒よろしくご願ひ申し上げます。

中期経営計画2026 概要

1 中期経営計画2026策定に際して

先行き不透明な状況下であるからこそ、将来を想定し、そこから現在の課題と打ち手を全社員一丸となって一刻でも早く考え抜きたいという想いを込めて、現中計の「2024中期経営計画 “New Foundation for the Future”」を一年前倒しで終了し、新たに2024年度を初年度とする中期経営計画2026及び、計画の柱とするわが社のパーパス「小麦の持つ無限の可能性で、世界の多様なニーズに挑戦し続ける」を策定しました。

2 前中期経営計画レビュー

定量目標

中期経営計画の業績目標を2023年度に一年前倒しで達成しました。

	前中計業績目標	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
連結売上高	-	56,544百万円	59,340百万円	69,540百万円	72,598百万円
連結経常利益	5,602百万円	5,027百万円	4,886百万円	5,728百万円	5,816百万円
連結純利益	4,000百万円	3,536百万円	3,714百万円	3,963百万円	4,238百万円
連結ROE	8.0%	9.3%	9.1%	9.1%	8.9%

定性目標

基本方針 「原料調達・製造・販売・開発・物流」全部門の連携を強化し、全社一丸となって、食の安心・安全・美味しさをお届けする。

重点戦略

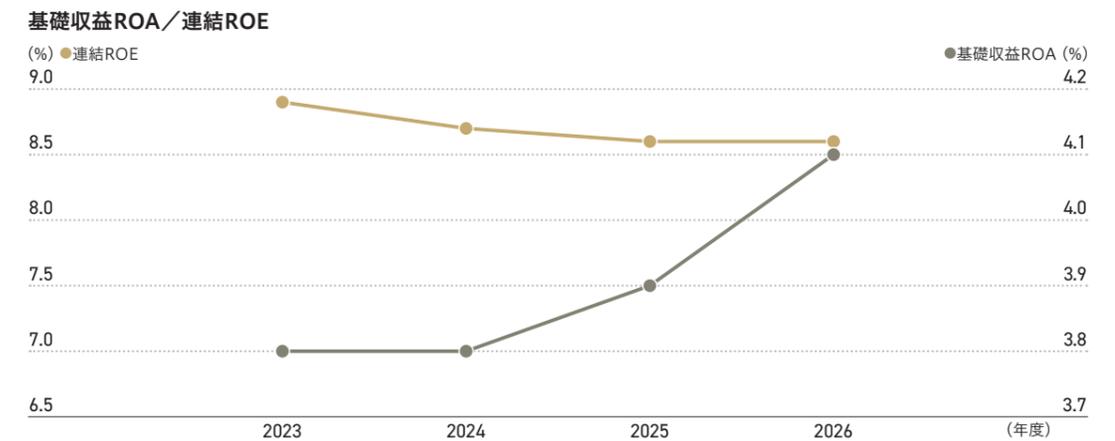
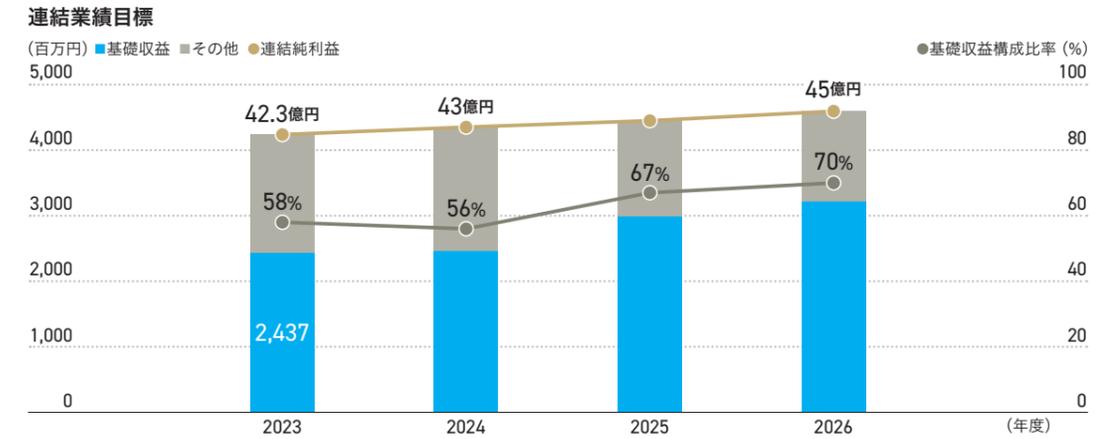
- 成長を支える設備・人材投資
 - 海外ミックス粉事業の面展開と小麦粉の輸出拡大
- グループ経営基盤及び連携の強化
 - 「主食を通じた食と健康の課題解決」に通じる新規事業機会の創出
 - 美味しさと健康を軸とした製品ラインナップの拡充

課題

- 持続的成長のための設備更新の必要性
- 更なる成長に向けた人材育成
- 海外事業の更なる基盤強化

3 経営目標

「基礎収益[※]」とは配合飼料用副産物損益を除いた当社の基礎的な収益力



		前中期経営計画 (目標)	2023 (基準年度)	2026 (最終年度)	基準年度比	
財務KPI	単年度	連結純利益	40億円	42.3億円	45億円	+2.7億円
		ROE	8%以上	8.9%	8%以上	-
	中期	基礎収益 [※]	-	24.4億円	30億円以上	+5.6億円
		基礎収益ROA	-	3.8%	4.1%以上	+0.3%
非財務目標	中期	GHG削減比率	● 2030年のGHG50%削減達成(2020年対比)に向けた環境対策の推進			
		ダイバーシティ関連	● 役職者(部長等)の女性比率向上 ● 特定技能制度活用による外国人労働者・技術者の活用			

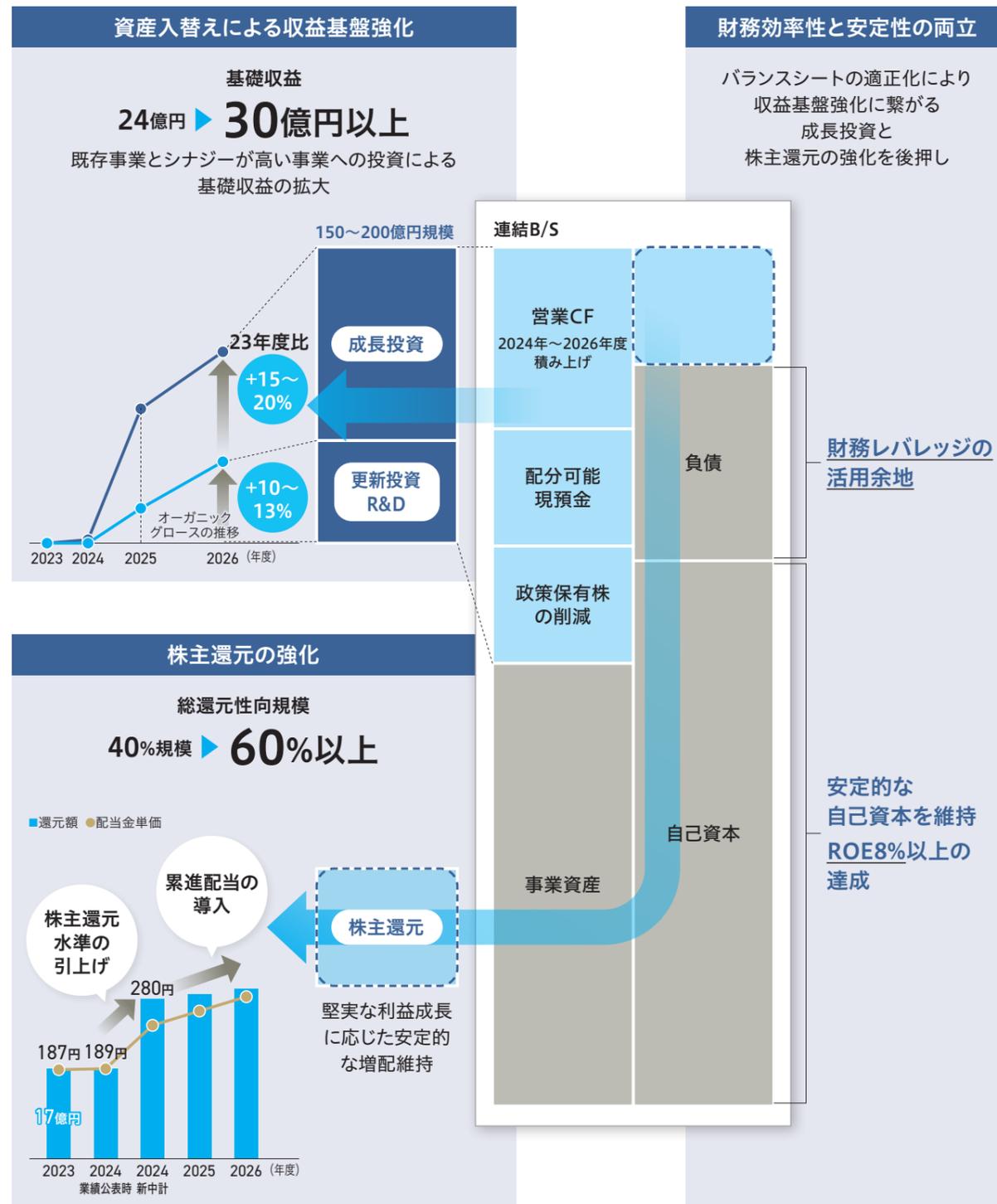
※ 基礎収益の定義：[営業利益-配合飼料用副産物損益] × (1-実効税率) + 事業投資損益(持分利益)

中期経営計画2026 概要

4 事業戦略

資本政策

中期経営計画2026期間内のキャッシュアロケーション方針



既存事業の収益力強化

重点課題	施策
<ul style="list-style-type: none"> 製粉挽砕増 営業・開発の一体型営業 調達の最適化 物流事業の再編 生産拠点の最適化による効率化 	<p>既存事業の量的拡大・質的向上 製粉挽砕増に繋がる拡販、消費者ニーズを捉える為のマーケティング活動強化、末端到達力強化の為の各施策を推進していきます。</p> <p>収益性向上及び安定化 グループ企業間の連携強化、生産拠点の最適化・効率化、物流体制の効率化、原料調達の最適化に資する各施策を推進していきます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  マーケティング強化 </div> <div style="text-align: center;">  最適な原料調達 </div> <div style="text-align: center;">  物流改革 </div> </div>

新規事業領域の強化

重点課題	施策
<ul style="list-style-type: none"> 事業領域拡大 DX化への対応 	<p>海外事業の拡大及び自立化 成長市場における量的拡大・質的向上に資する施策を進めていきます。</p> <p>新規事業領域に繋がる成長投資 事業ポートフォリオの再構築による事業領域拡大や、投資先のターンアラウンドによる事業価値の拡大を目指します。</p> <p>稼働DX化の推進 DX戦略全体のグランドデザインを策定し、業務を電子化・効率化の上、ECプラットフォーム構築を目指します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  海外市場の拡大 </div> <div style="text-align: center;">  食の高度化・多様化 </div> <div style="text-align: center;">  DX推進 </div> </div>

事業基盤の強化

重点課題	施策
<ul style="list-style-type: none"> 人的資本・人財強化 資本政策 SDGsへの対応 	<p>人的資本の最適化 人事制度改革による人材活用・育成・ローテーションを実施し、人的資本を最適化してまいります。</p> <p>資本効率向上と財務安定性を踏まえた資本政策 資本効率と財務安定性が両立する各種資本政策を進めてまいります。</p> <p>サステナブル経営の推進 マテリアリティ・SDGs項目を再定義し、サステナビリティ経営に資するコーポレートガバナンスを強化してまいります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  人材育成強化 </div> <div style="text-align: center;">  財務戦略 </div> <div style="text-align: center;">  SDGs推進 </div> </div>

管理本部長メッセージ

当社では新たにパーパス経営がスタートいたしました。そこで求められるのは「挑戦し続ける」人財と、それを醸成する風土や制度づくりです。今後、ヒト・モノ両面に向けた成長投資を積極的に行い、パーパスの実現また持続的な成長を目指してまいります。

取締役常務執行役員
(管理本部長兼業務監査室担当兼リスク・計数管理室長
兼コーポレートIT部長兼DX推進チームリーダー)

太田 大志



人的資本・人財の強化に向けて

既承の通り、今般当社では新たに制定したパーパス「小麦の持つ無限の可能性で、世界の多様なニーズに挑戦し続ける」に基づくパーパス経営がスタートいたしました。パーパス実現にあたっては言うまでもなくヒトが要であり、今後、パーパスに表現されるが如く「挑戦できるヒト」の育成に努めていきたいと考えております。元来、当社社員は協調性や粘り強さを強みとする一方、殻を破って何かに挑戦する気質が欠けている感もありました。業界環境が厳しさを増す中、単に協調性や粘り強さだけで今後の成長を果すことは困難であり、さらにもう一歩踏み出し挑戦する風土や人財づくりを目指してまいります。

その具体策として、「中期経営計画2026」内で掲げているのが「人的資本の最適化」です。また「人的資本の最適化」に際しては、次の3点を軸に展開していく方針です。1点目は「ニーズ」です。前述のような昨今の環境下では、人員増による事業拡張よりも、少数体制の中で必要なところへのヒトの再配置が重要となります。つまりは会社としてのニーズを考え、そこにしっかりと必要な人財を投入していきます。2点目は「適正」です。社員個々人のスキルや知見を、しっかり会社として捉えた上で再配置を実施します。また、再配置に伴って必要なリスティングも図りながら、個々の適正と業務を合わせていきます。3点目は「モチベーション」です。社員の皆さんにおいてはキャリアプランに対する関心が高く、個々のキャリアプランやライフステージ或いは価値観に沿った適切な場を提供することで、モチベーションの向上を目指します。

そしてこれらの土台となるのが、今後予定する人事制度改革です。まだ詳細をお伝えすることはできませんが、新人事制度では従来の硬直的な縦割り感を排除して、会社全体を俯瞰で捉え、これら3軸のバランスを取るような全社横断型の人事ローテーションを計画しております。また年齢・性別・国籍など関係なく、全ての社員にとってフェアであり、且つ実力があってやる気のある方が活躍できるような制度にしていきたいと考えております。

財務視点で捉えた「中期経営計画2026」

確かに当社はこれまで展開していた中計の目標を前倒しで達成できたものの、キーワードとして目指していた「持続的成長の実現」という観点では、もの足りなさが残るのも事実でした。それを補うべく、1年前倒しで「中期経営計画2026」に移行した次第です。

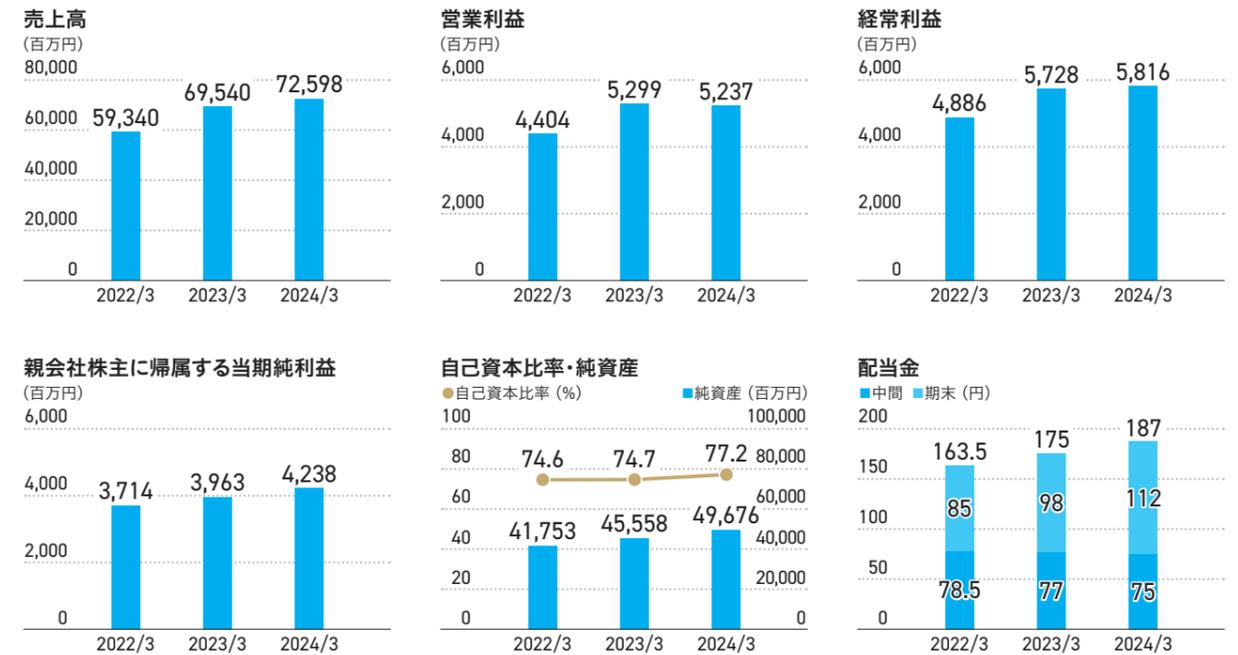
当中計では「持続的成長」というキーワードの下、積極的な成長投資によって収益基盤を確固たるものとし、基礎収益のもう一段高い伸長を目指します。幸いにして今日の当社では潤沢なノンコア資産があり、この辺りを成長投資に問題なく回せる状況にあります。且つ自己資本比率も70%超と非常に高く、借入れ余力もあります。これらを土台として向こう3ヶ年ではM&Aも視野に入れながら、持続的成長に繋がる収益基盤の強化に取り組んでまいります。

このようなこれからのアセットの変化の中で、もう1つ重要視するのが「株主還元の強化」です。当社が属する食品業界は、短期間で収益が急激に成長するようなセクターではありません。あくまでも緩やかな成長を基本とする業界です。つまりは堅実な利益成長に応じて一定の余力が見込まれ、それを「株主還元の強化」に充てていきたいと考えております。その一環として当社では、この2024年度より280円を下限とする累進配当を導入いたしました。安定的な高配当を維持することによって、株価の向上や長期的な株主ファンづくりを促してまいりたいと考えております。

ステークホルダーの皆様へのメッセージ

繰り返しになりますがこれから当社が果たすべきは、持続的な成長とその過程において魅力ある製品を社会に提供し続ける、という点にありたいと考えております。そこに向けて従業員一丸となって挑戦し続けていく所存です。また併せて、これからの新しい資本政策の中では株主様との長期的な関係構築に努め、我々が持続的に成長し続けていく姿を見守っていただけたらと存じます。

財務ハイライト(連結)



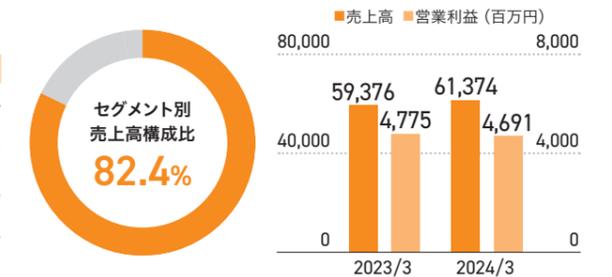
事業セグメント概要

※セグメント別売上高には、セグメント間取引額を含んでおります。

製粉及び食品事業

事業内容

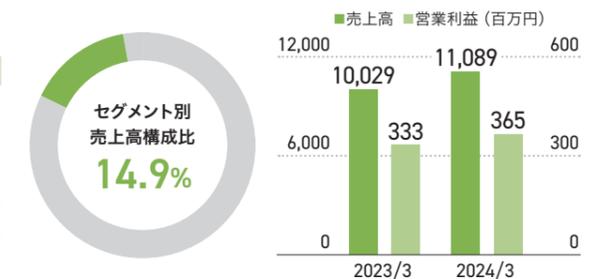
「製粉及び食品事業」につきましては、売上高は値上げ期間の小麦粉販売が堅調に推移したことに加えて、市況価格が高止まりした副産物及びコロナ禍後の人流回復に伴う外食・行楽需要によるプレミックス粉の好調な販売に支えられた結果、前年同期比3.4%増の613億7千4百万円となりましたが、営業利益は人件費等営業費用の増加に伴い、前年同期比1.8%減の46億9千1百万円の増収減益となりました。



外食事業

事業内容

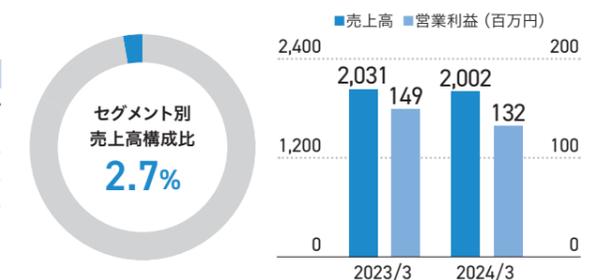
「外食事業」の働さわやかにつきましては、KFCのトップフランチャイジーとして関東、東海地区で店舗展開しているほか、各種レストラン等多角的な事業活動を進めております。コロナ禍後、外食需要が回復する中で、2024年3月期は主力のKFCでのキャンペーンの奏功・デリバリー需要伸長等により、売上高は前年同期比10.6%増の110億8千9百万円、営業利益も前年同期比9.6%増の3億6千5百万円の増収増益となりました。



運送事業

事業内容

「運送事業」の日東富士運輸(株)につきましては、当社の原料小麦及び製品の運送の大部分を行っております。2024年3月期はバラ製品及び袋物製品の配送数量が減少したこともあり、売上高は前年同期比1.4%減の20億2百万円、営業利益も前年同期比11.6%減の1億3千2百万円の減収減益となりました。



ESGハイライト

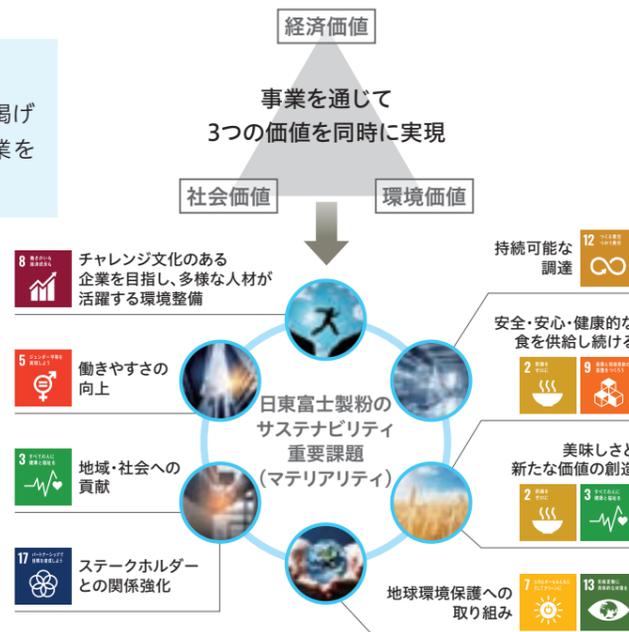
サステナブル経営の推進

サステナビリティガバナンス

日東富士製粉グループは、国際社会の共通目標として掲げられた「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に、事業を通じて貢献していきます。

食品安全、顧客満足・労働安全、設備保全等を管理するための当社独自のシステム「Nitto Fuji Total Operation Program (NTOPI)」に環境マネジメントシステムを組み込み、生産・品質管理と一体となったマネジメントサイクルでサステナビリティ重要課題の取り組みを推進しております。

これらの仕組みの効果的な運用及び維持を確実にするため、常務会(各本部長)が責任と権限を持つ体制としており、資源(ヒト・モノ・カネ・情報)確保や、マネジメントレビューによる有効性評価、ならびにその改善を指示することとしております。



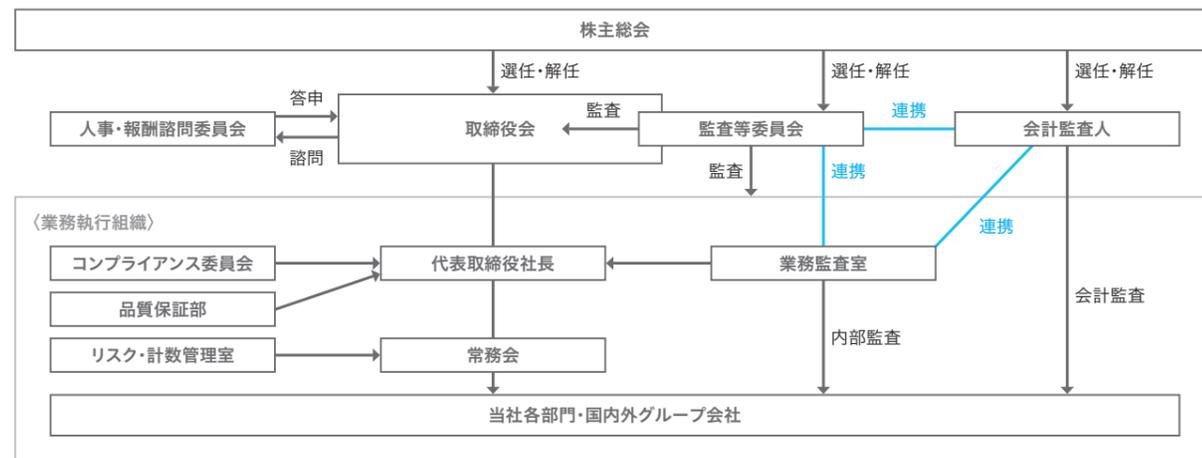
コーポレートガバナンス

基本的な考え方

当社は、経営環境の変化に迅速に対応できる効率的な組織体制を構築するとともに、公正で透明性の高い健全な企業経営に努めてまいります。

- 経営の透明性と健全性の確保
- スピードある意思決定と事業遂行の実現
- アカウンタビリティ(説明責任)の明確化
- 迅速かつ適切で公平な情報開示

コーポレートガバナンス体制図



企業統治体制の概要

取締役会の監査・監督機能の一層の強化とガバナンスの更なる充実を図るため、監査等委員会設置会社へ移行しております。また、機動的かつ効率的な経営体制の強化を目的に、2008年6月より経営の意思決定と業務執行を分離し、執行役員制度を導入しております。

食品安全への取り組み

当社は、パーパスの実現を目的として、食品安全マネジメントシステムをベースとした当社独自のシステム「Nitto Fuji Total Operation Program (NTOPI)」を確立し、運用・維持・改善しております。これからも全部門の連携を強化し全社一丸となって、食の安全・安心・美味しさをお届けしてまいります。

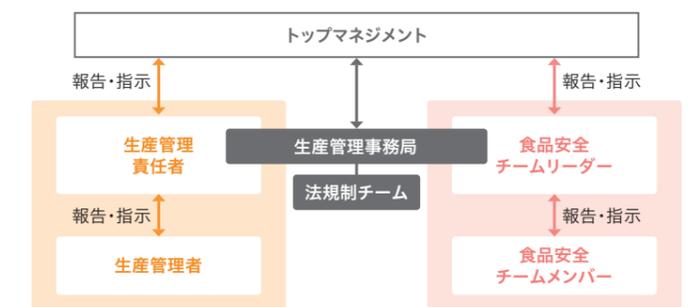
食品安全・品質方針

1. お客様の立場に立ち、安全・安心な製品・価値を提供します。
2. 国内外の関係法規法令・条例等を遵守します。
3. 原料から配達までのフードチェーンの管理体制を確立し、製品保護及び品質の確保に努めます。
4. お客様に情報開示し、企業ならびに製品への信頼を高めます。
5. 当社独自のシステム「NittoFuji Total Operation Program(NTOPI)」に基づき、製品の安全性を確保し、より良い品質を追求し続けます。

認証規格

規格	取得年月	取得事業所
ISO22000	2008年 9月	● 国内全社
FSSC22000	2013年10月	● NITTO-FUJI INTERNATIONAL VIETNAM Co., Ltd.
FSSC22000	2017年 7月	● 国内全工場
FSSC22000	2021年 4月	● Nitto Fuji International (Thailand) Co., Ltd.

食品安全管理体制図



環境への取り組み

当社は、安全・安心な製品づくりのなかで、環境への貢献を社会的責任であると位置付け、健全な環境づくりに積極的に参加していきます。地球環境・地域環境との調和を図るため、以下の通り環境方針を定め、環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善してまいります。

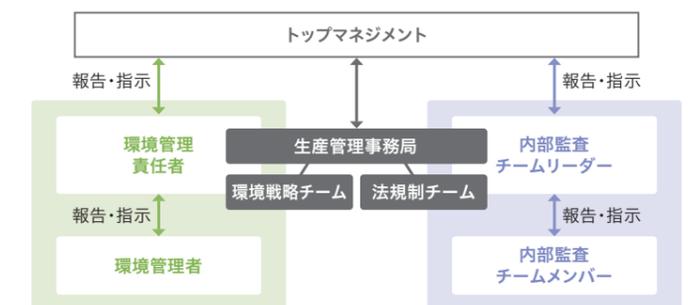
環境方針

1. 経営における全てのプロセスにおいて、地球環境・地域環境に与える影響を認識し、環境負荷の低減を目指します。
2. 全従業員の創意と工夫によって省エネルギー、省資源、リサイクル促進に努めていきます。
3. 環境に関する法令・規則や、当社が同意する他の要求事項を遵守していきます。
4. 本方針に準拠して環境目的を設定し、その達成の為に環境目標を定めて運用していきます。また、これを定期的に見直し改善していきます。
5. 本方針は社員教育を通じ従業員に周知徹底させるとともに、要求に応じて公表していきます。

認証規格

規格	取得年月	取得事業所
ISO14001	2010年11月	● 国内全社 ● NITTO-FUJI INTERNATIONAL VIETNAM Co., Ltd.
ISO14001	2021年10月	● Nitto Fuji International (Thailand) Co., Ltd.

環境管理体制図



企業情報・株式情報 (2024年3月31日現在)

会社の概要

商号 日東富士製粉株式会社
本社所在地 〒104-0033
東京都中央区新川一丁目3番17号
設立 1914年3月25日
資本金 2,500百万円
主な事業内容 小麦粉、ふすま等の製造及び販売

グループ会社

日東富士運輸株式会社
株式会社さわやか
隅田商事株式会社
NITTO-FUJI INTERNATIONAL VIETNAM CO., LTD.
株式会社増田製粉所
兼三株式会社
Nitto Fuji International (Thailand) Co., Ltd.

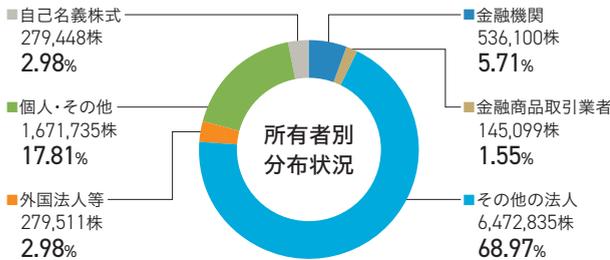
株式の状況

発行可能株式総数 30,000,000株
発行済株式の総数 9,384,728株
株主数 18,720名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱商事株式会社	5,905	64.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	373	4.1
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	132	1.5
山崎製パン株式会社	123	1.4
日東富士製粉持株会	120	1.3
日清食品ホールディングス株式会社	103	1.1
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	70	0.8
古庄政文	66	0.7
鈴与株式会社	51	0.6
JPモルガン証券株式会社	50	0.6

株式分布状況



(注) 1. 自己株式(279千株)は上記記載から除いております。
2. 持株比率は自己株式(279千株)を除いて計算しております。

日東富士製粉の誕生とあゆみ

1914年

埼玉県熊谷市に松本米穀製粉(株)として設立



1930年

日東製粉(株)と改称

1938年

東京証券取引所に上場

1941年

岳麗製粉(株)(富士製粉(株)前身)として設立



1964年

三菱商事(株)と総代理店契約を締結

1980年

東証一部に指定替え

2006年

日東富士製粉(株)として新たなスタート



2006年

Nitto-Fuji International Vietnam Co., Ltd.を設立

2007年

三菱商事(株)の連結子会社に

2018年

(株)増田製粉所の全株式取得、子会社化



2018年

Nitto Fuji International (Thailand) Co., Ltd.を設立

2022年

東証再編により東京証券取引所スタンダード市場に変更